



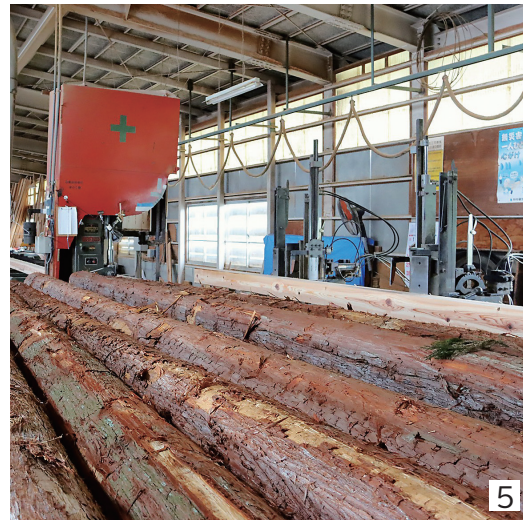
8



6

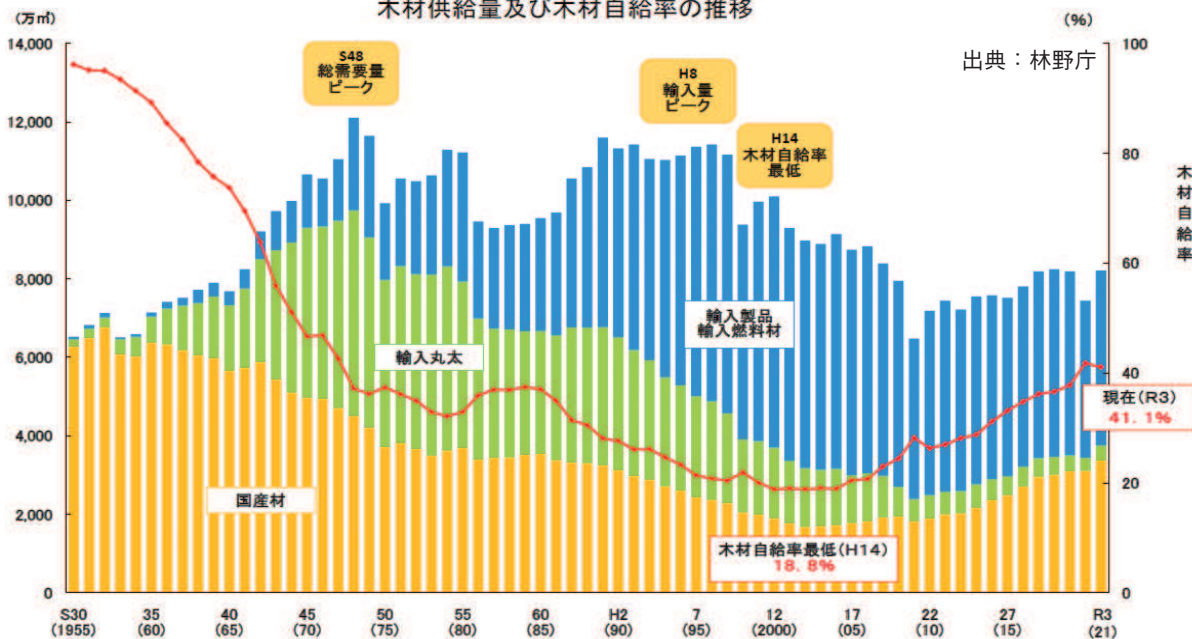


7



5

木材供給量及び木材自給率の推移



- ① 木材乾燥機
- ② 乾燥センター内部
- ③・④ 製材作業の様子
- ⑤ およそ6分に切り揃えられた木材
- ⑥ 製材作業で出る木材の剥材部分はチップに加工される
- ⑦ 仕上げが行われた製品
- ⑧ 刻印された製品（柱や梁等に使用）

『おきたま木材乾燥センター(株) センターの設立』

白鷹町の森林の多くを占める杉は、水分量が多いことが特徴で、木材そのものの重量と同じ重さの水分が含まれています。

そのため、木材を乾燥するには、製材をした後、長期間の自然乾燥を行い、製品にする必要があります。

また、自然乾燥では、木材の収縮や割れ、曲がり、反りが発生することも多く、そのため、自然乾燥の建材は消費者からも敬遠されがちであり、一般住宅などにもほとんど使用されない状況でした。

これらの乾燥段階の課題解決を図り、杉材の積極的な利用、安定した製品としての付加価値を持たせた販売を行うため、町内および近隣市町の企業の出資により「おきたま木材乾燥センター(株)」が平成28年度に設立されました。

おきたま木材乾燥センター(株)は、木材乾燥機のほか、木材強度を測るグレーディング装置を導入し、木材の含水率、木材強度を1本ずつ計測することにより均一で確かな品質の建材の出荷を実現しました。

■センターの強み

利用者側から求められる、均一で高品質の製品を出荷するため、構造材JAS(日本農林規格)の認証を取得したことがセンターの大きな強みとなっています。

この構造材のJAS認証工場は県内に3カ所しかなく、取引先や消費者の大きな信頼となっています。

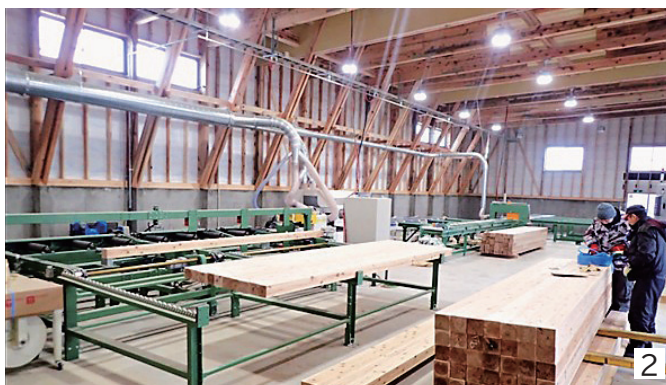
今後、森林整備が進むことにより、白鷹町産材の生産や出荷が多くなることが予想されます。これらの強みを活かして、関係企業と連携し地元のほか、県内、県外へ販売を拡大していきたいと考えています。



もり 森林と共に

白鷹産木材の 活用に向けて

丸ト建設(株)・おきたま木材乾燥センター(株) からリポート



村上 榮一代表取締役
(平成 11 年～現職)

丸ト建設(株)

- ・昭和 22 年製材業として創業
- ・昭和 30 年頃から住宅等建築事業を行う
- ・昭和 42 年法人化。
- ※当初は建築材の他、電柱材やリンゴ箱、苗箱、魚箱などの製材も行っていた。

おきたま木材乾燥センター

- ・村上榮一代表取締役
- ・平成 28 年設立(町内および近隣市町 6 社出資)

《丸ト建設(株)》
**■建築用材としての木材利
用について**
 従来の住宅建築については、柱、梁を表面に表す「真壁しんかべ」の建築工法でしたが、現在は、柱、梁を表に出さない「大壁おおかべ」という建築工法が主体になってきています。
 そのこともあり、市場で求められる建材は、節のない美しい建材から、確かな強度の建材に変わってきています。
 「木材を表に出して木の良さを少しでもわかってほしい」と思っているが、時代の変化もあり少し悲しく感じる。しかし、白鷹町で取れる木材は、強度があるので、その強みを活かして製品を供給していきたい。一方で木の良さを感じてもらおう取り組みもしていきたい。」と村上さんが語ってくれました。

■これからの白鷹町の木材の活かし方
 戦後に植林した白鷹町の木材は直径 50 センチを超える大径材と呼ばれる太い丸太に育っています。
 しかし、現在の量産型の大規模製材所では、大きすぎて製材機械に入らず規格外となつてしまい、結果的にバイオマス燃料材になる状況にあります。
 その大径化した木材を、丸ト建設(株)では、「平角」と言われる梁材などに使う、断面の大きな建材として使用しています。また、小回りの利く町の製材所の特徴を活かし、「特寸」と言われる長さ 4 メートルを超える建材やさまざまな寸法の建材を製材することにより、木材を無駄なく利用しています。